

平成30年度地方創生推進交付金（第1回）実施計画【概要】

1 交付対象事業の名称

開府500年を契機とするVRコンテンツを活用した賑わいの創出事業

2 計画期間

平成29年度から平成31年度まで

3 地方創生として目指す将来像（・交付対象事業の背景）

本市の歴史的な節目となる平成31年の「こうふ開府500年」や平成33年の「武田信玄公生誕500年」を契機として、「自然」「歴史・伝統」「産業」「生活文化」など、地域に根付いた個性的で豊富な資源を発見、または再発見する中で、「こうふ」でなければ実体験することができない新しいコンテンツ（VRコンテンツ）を構築し、平成29年度に完成した甲府駅南口の甲府市観光案内所、平成31年4月に完成予定である武田氏館跡ガイダンス施設、及び甲府城周辺整備に係る歴史文化ゾーンなどの交流施設をベースに「人」の回遊性を生み出すとともに、誘客促進の各種イベントにおいて活用するなど、地域経済活動を継続的かつ安定的に下支えすることができる新たな地域資源として確立させるほか、学業や生涯学習の教材コンテンツとして活用し、地元住民の郷土愛や愛着心、また地域ならではの資源や文化を護り育てようとする意識を継承・醸成するとともに、高齢者等の健康づくりに視点を据えた活用や将来のまちづくりに対する市民意識の醸成をも狙いとする中で、高いホスピタリティを持って地域内や来訪者等との交流を深め、人と人との繋がりによる賑わいと魅力に溢れた「まち」を創出する中で、誰もが「訪れたいまち」、「暮らしたいまち」として選ばれるまちづくりを推進する。

4 地方創生の実現における構造的な課題

観光面では、観光入込客数は増加しているものの、県内の増加水準には及ばず県内に対するシェアも若干低下しており、平日・休日別滞在人口を見ると、県内における居住と就労の拠点性は高いものの、県外から休日に来訪者を吸引する力が弱く、相対的に弱さが見られる。また、産業面では、「製造業」、「卸売業・小売業」などの「雇用力」と「稼ぐ力」の中核となる産業の従業者数、販売額・出荷額等も減少しているほか、県内に対するシェアも低下傾向にある。こうしたことから、地域経済活動に好循環をもたらす地域資源（VRコンテンツ）構築と「人」の回遊性を重視した新たな交流拠点の整備（まちづくり）が急務である。

加えて、大学卒業や就職時における若者の転出超過が顕在化する中、年少者の郷土愛や愛着心を育み、地元への定着を促し、「次代の甲府」を担い、任せられる人材の育成を行う必要がある。

また、独居老人等の「ひきこもり者」が増加傾向にあることから、高齢者等が意欲的に外出する機会を設ける中で、高齢者等の健康づくりを支援する取組が必要である。

さらには、100年先の「こうふ」をビジュアル化（具現化）することで幅広い市民層に将来のまちづくりに対する意識付け（ビジョンの共有化）を行う必要がある。

5 交付対象事業の概要

「こうふ開府500年記念事業」の基本コンセプトである、「過去に学ぶ」「現在を見つめる」「未来につなぐ」の各ステージに応じて各種VRコンテンツを構築し、観光振興・産業振興・担い手の育成・高齢者等の健康増進、加えて、次代に引き継ぐ「まちづくり」の方向性（未来の「こうふ」のイメージ）の共有化などに活用する。

【VRコンテンツ（案）】

- ①約500年前・約300年前・約150年前の甲府の歴史や文化が感じられるもの
- ②リニア中央新幹線の開通を見据えた100年先の「こうふのまち」の創造 など

【活用対象事業(案)】

- ①交流拠点において活用するとともに、各種誘客イベント（「小江戸甲府の夏祭り（毎年8月11日に開催）」、「こうふ開府500年記念事業（平成31年から33年）」など、まちの賑わいの創出に活用
- ②次代の担い手（小中学生）への教材としての活用

6 交付対象事業が構造的な問題の解決に寄与する理由

「雇用力」と「稼ぐ力」の中核となる「製造業」、「卸売業・小売業」などの産業の伸び悩みや、県外からの来訪者の吸引力などが弱くなっている中であって、「こうふ開府500年」などの地域経済活動全般にインパクトを与える絶好の機会を得ている本市において「こうふ」でなければ実体験することができない新しいコンテンツ（VRコンテンツ）を起爆剤としながら地域経済を潤す観光・産業振興施策を幅広く展開することで、地域の元気が創出されるほか、VRコンテンツの教材活用により、連綿と続く本市の「歴史・伝統」「生活文化」などを継承するとともに、幅広い市民層に将来のまちづくりに対する意識付け（ビジョンの共有化）など、地域を支える担い手の育成を行うことができる。

加えて、高齢者のヘルスケア事業の中で、VRコンテンツを効果的に活用することにより、増大する医療費等の社会保障経費の抑制を図ることができる。

また、コンテンツの充実や保守等の経費がハード整備に比べ安価であることから、利用者のニーズなどに対応したバージョンアップをすることで、リピーターの確保を図ることができる。

7 交付対象事業の重要業績評価指標 (KPI)

(1)KPI の設定

No.	KPI	単位	設定理由
1	休日午後の県外来訪者滞在人口数（滞在時間2時間以上が対象）	人	観光施策や地域の活性化の側面からは、来訪者の滞在時間測定につながる滞在人口数を数値目標にすることが適しているため。
2	VR コンテンツの利用者数	人	新しいコンテンツ（VR コンテンツ）による効果の計測には、利用者数を数値目標にすることが適しているため。
3	VR コンテンツを教育教材として活用した人材育成事業への参加者数	人	次代を担う人材の育成及び高齢者等の健康増進が本事業の目的の一つであるため。

(2)KPI と実績

No.	事業開始前	H29 年度 増加分	H30 年度 増加分	H31 年度 増加分	KPI 増加分 の累計
1	147,000	50	300	600	950
2	—	500	700	800	2,000

※No.3 は平成 30 年度から実施する計画となっている

8 全事業期間における平成 30 年度の位置づけ

約 500 年前と約 150 年前の甲府の歴史や文化が感じられる VR コンテンツを作成し、前年度の舞鶴城下（300 年前）VR コンテンツを含めて、将来的な運営主体となる甲府市観光協会（甲府市観光案内所）や「こうふ開府 500 年記念事業」のオープニングのイベント等における集客アイテム（観光資源）として活用する中で、交流人口の確保を図るほか、小中学生等の歴史教育の教材として、また、地域住民の「こうふ開府 500 年記念事業」に対する機運の醸成を図るツールとしても活用する。

なお、これらの VR コンテンツについては、観光分野をはじめとする産業振興施策や、本市の魅力を国内外に発信するシティセールス活動、更には、市民住民の郷土愛・愛着心の育みや、小中学生の教育教材としての利活用など、本コンテンツを用いた効果的な施策・事業を幅広い分野において継続的に展開することにより、地域の元気を生み出す地域資源として活用を図る。